
SAKURA咲ク

鉤心繫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SAKURA咲ク

【Nコード】

N7658B

【作者名】

鮑心繫

【あらすじ】

三年経ったら迎えに来てくれるんだよね 私・・・待ってるよ！

〈序章〉

SAKURA咲いたよ……

三年が経ったよ……迎えに来てくれるんだよね？

私はこの日の為に沢山頑張ってきたんだよ。

ずっと……待っていたんだよ。

ねえ拓ちゃん（たくちゃん）……私の気持ちは変わってないよ？

拓ちゃんの気持ちはどうなの？

私の事……今でも好きですか？

〈第一章〉

「拓ちゃん ごめんね遅れて……帰ろ」

私と拓ちゃんは幼馴染

そして恋人同士！

私から告白したの。

拓ちゃんは初めは驚いていたけれどそれから私の口とホッペにキスをしたの。

それが初キス & 初カレ

私は幸せな日々を送っていた。

デートも許してくれた

「バカップル」

だったのだ。幸せくて感じの小学六年生から中学二年生だった。

だけど拓ちゃんはもつと進みたいらしくてキスとか手を繋ぐとかじや無くて……お泊りとかをしたらしい。

私はそれを聞いたとき、緊張した。

楽しそうだったから七夕の日に拓ちゃんの家泊まる事にした。

拓ちゃんはすつごく喜んでいた。

そして7月7日。

私は5時から拓ちゃんの家に住居た。

夕ご飯はハンバーグだった。

私の大好物

たくさんハンバーグを食べた後、拓ちゃんの部屋に向かった。

拓ちゃんは微妙に緊張していて私からキスすると

「我慢できなくなった。」

と言ってこの日、私達は一つになった。

第二章

私は目を覚ました。

よく見ると拓ちゃんと一緒に寝てた。

「おはよ」

拓ちゃんが起きた。

私はすぐに服を着て下へ降りようとした。

拓ちゃんは降りようとしなない………なんとなく理由がわかった。

私は拓ちゃんの口にキスをした。

拓ちゃんは何ごとも無かったかのように手を繋いで下へ降りた。

「あら〜LOVELOVEね」

お母さんが言った。

「でしょ〜?」

拓ちゃんはすつごくノリノリで答えた。

そして学校を一緒に行った。

〈第三章〉

三年後。

私達は高校を卒業した。

拓ちゃんは違う大学に三年間行くらしい。

そして私達は一回解散した。

〈三年後また迎えにくるという約束で〉

そして春……

拓ちゃんはいつまでたっても

「友香」

といってくれなかった。

私は拓ちゃんの家に行く事にした。

「すみません……拓ちゃん居ますか？」

「ちよつと入って……？」

なんか変だった。

「言いづらいんだけど……拓の奴……留学に行っているんだ。フラン

スに……」

「ありがとうございます！」

私はフランスへ行く事にした。

〈フランス〉

私は三日間くらい彷徨った。

大学に行つて探してみると楽器を担いだ拓ちゃんがこっちへやってくる。

私が立って拓ちゃんの元へ行つた。

「拓ちゃん……！」

「……友香？」

会いたかった：私達は声を揃えて笑った。

（二年后）

私達は結婚して幸せに暮らしている。

いつまでも色あせないように………

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7658b/>

SAKURA咲ク

2011年1月3日20時19分発行